

リンクスの 事業再生現場

レポート 第49回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL : 028-634-5088
Mail : info@rincs.biz
URL : http://www.rincs.biz/

【足利銀行上場への思い】

足利銀行国有化から10年、いよいよ出口を迎えることになりました。私自身も足利銀行出身ということで多くの取材を受け、クライアント先とも上場の話が尽きない1か月でした。

この稿が掲載する頃には、再上場を果たし、今後の県内経済のリーダーシップを担っていくことへの期待感が高まっていることと思います。

ただし、今回の再上場を複雑な心境で見守っている方々も多いことは、私、足利銀行OBも含めて忘れてはいません。私共のクライアント先にも、足利銀行優先株に協力し大きな損失を出された方、国有化の際の不良債権切り離しにより、足利銀行から取引を切られた方が大勢いらっしゃいます。

国有化当時、足利銀行と取引をされていて、その後、整理回収機構に貸出金債権が譲渡された会社の会長さんの思いを紹介したいと思います。

その会社は地元の老舗ですが、過剰債務を抱え、連続赤字の状況でした。取引銀行は足利銀行一行のみです。バブル期に足利銀行の勧めにより、駐車場として地元の一等地を購入しました。その返済を一度も遅れることなく、10年以上継続してきましたが、突然、足利銀行から債権譲渡を通知されたそうです。当時の決算をみますと、財務内容は確かに大きな問題を抱えています。しかし、個人資産を取り崩して返済だけは遅れなく履行していたのですから、会長にとっては寝耳に水といったところでしょう。まさか、うち

の会社が切り離されるとはと、信じられなかったそうです。

足利銀行が国有化されなければ、苦しいながらも、親子2代、3代かけて返済していったと思います。それが、不良債権処理の掛け声の元、一斉に切り捨てられてしまったのです。当時、私も銀行内にて融資関連部署にいましたが、大きな力の前では、破綻した銀行の行員の意見など通るはずもなく、粛々と金融庁のルールに基づいて処理が進められていったのです。破綻企業への債権、延滞債権が切り離されるのは当然ですが、財務内容のみで不良債権と判定されていきました。国有化以前は再建の可能性を見て判断していたものが、目の前の数字のみでの判断となったのです。それまで取引いただいたお客様に対し、取引解消を宣告する辛さ、申し訳なさ、忘れることはないでしょう。

話を戻しますが、その会長さん、私共と出会い、債務の元凶であった土地を売却していただきましたが、残った債務は新たな債権者から全額免除を受け、現在、順調に商売を続けています。その会長さんから足銀へのメッセージです。

「足利銀行から切り離されて当時は随分恨んだりもしたけど、あのことがあったから、息子の代に借金を引き継がなくてすんだよ。うちが重荷を取り払ったように、足利銀行も再上場で、もう過去のことは忘れて、地域を引っ張ってほしいね。」



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。